

BLSR から UPSR へのノード設定の変更 - Cisco ONS 15454

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[UPSR 変換への BLSR](#)

[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、Cisco ONS 15454 環境で Cisco Transport Controller (CTC) を使用して、双方向ライン スイッチ型リング (BLSR) を単方向パス スイッチ型リング (UPSR) に変換する方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- Cisco ONS 15454
- CTC

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- Cisco ONS 15454 バージョン 4.1.0、およびそれ以降。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

UPSR 変換への BLSR

この資料は 4 つのノード (Node1、Node2、Node3 および 4) ノードとラボ の セットアップを 使用します。 BLSR に UPSR を変換するこれらの手順を使用して下さい。

図 1 : トポロジ

1. SONET Data Communications Channel (SDCC) がすべてのノードのためにきちんとはたらくかどうか確かめて下さい。 Network ビュー ([図 2](#)) がアラーム (光 スパン ファシリテ ィの何れかに LOS が無いことを確認する CTC の [3](#)) [図](#) を検査して下さい。 [図 2-CTC の Network ビュー](#) [図 3-アラーム](#)
2. 完全なノード 1.のデータベース バックアップをこれらのステップ行って下さい:ノード 1.をダブルクリックして下さい。 ノード 1 のための Node View は現われます。 **Maintenance > Database タブ** をクリックして下さい。 [図 4-バックアップ](#) 『Backup』 をクリックして下さい。 SAVE ダイアログボックスは現われます。 [図 5-保存ワークステーションのハードドライブ、またはネットワークストレージでデータベースを保存して下さい。](#) .db ファイル拡張子と適切なファイル名を使用して下さい (たとえば、 *database.db*)。 [Save] をクリックします。確認のダイアログボックスで OK をクリックします。 [図 6-バックアップ データベース-確認のダイアログ ボックス](#)
3. ノード 2、3 および 4.のステップ 2 を繰り返して下さい。
4. 回線リストをエクスポートして下さい。 次の手順を実行します。 ノード 1.をダブルクリックして下さい。 ノード 1 のための Node View は現われます。 [Export] をクリックします。 [図 7-エクスポートExport](#) ダイアログボックスのデータ 形式を選択して下さい ([図を 8](#)) 参照して下さい。 HTML として—これはグラフィックなしで簡単な HTML テーブル ファイルとしてデータを保存します。 Netscape Navigator、Microsoft インターネットエクスプローラ、または HTML ファイルを開くことができる他のアプリケーションのようなアプリケーションのファイルを表示するか、または編集して下さい。 CSV として—これは Comma-Separated Values (CSV) として CTC 表を保存します。 TSV として—これはタブ分けられた値 (TSV) として CTC 表を保存します。 [図 8-Export](#) ダイアログボックス[OK] ボタンをクリックします。 SAVE ダイアログボックスの **ネーム** フィールドの名前をタイプして下さい。 これらの形式の 1 つを使用して下さい:[ファイル名].html — HTML ファイルのための ...[ファイル名].csv — CSV ファイルのための...[ファイル名].tsv — TSV ファイルのための ...ファイルの保存場所となるディレクトリに移動します。 [OK] ボタンをクリックします。
5. ノード 2、3 および 4.のステップ 4 を繰り返して下さい。
6. リング スイッチ オペレーションが進行中ではないことを確認するために **Maintenance タブ** を確認して下さい。 アラームをチェックし、すべての光 スパン カードに対して宣言されるすべてのアラームをクリアして下さい。 次の ステップに進む前にリング構成のすべてのノードのすべての時間同期化および SDCC 通信アラームをクリアして下さい。
7. **プロビジョニング > BLSR** タブをクリックし、リングを選択し、『Delete』 をクリックして下さい。 [図 9-削除 BLSR](#)
8. **確認リング 削除** ダイアログボックスで 『Yes』 をクリックして下さい。 [図 10-リング 削除を確認して下さい](#)

変換の後で、回線リストの回線はまだはたりますが、ファイバまたはスパン 保護がありません。 すべての回線はオリジナル ワーキングパスを利用します。 保護を必要とする場合、各回線を削除して下さい。 それからスパン 保護で各回線を作成して下さい。 これには **ACTIVE** 状態で回線が含まれています。

図 11-ファイバまたはスパン 保護のない現用回線

注意: ソフトウェアおよびハードの変更はトラフィックに影響を与えることができます。 スパン

ファイバパス保護はリング変換の後で利用できません、以外変換の後で作成される回線で。影響を最小限に抑えるために Maintenance ウィンドウの間に作業を遂行して下さい。

BLSR UPSR 変換にキャンセルする必要がある場合これらのステップを完了して下さい:

1. 直接 CTC によるアクセス ノード 1。
2. Node View で、**Maintenance > Database** タブをクリックして下さい。
3. 『Restore』 をクリックして下さい。
4. ワークステーションのハード ドライブまたはネットワーク ストレージに常駐するデータベース ファイルを取付けて下さい。
5. データベース ファイルをハイライト表示するためにクリックして下さい。図 12 –バックアップ データベース ファイルを見つける
6. [Open] をクリックします。データベース Info ダイアログボックスは現われます。図 13 –データベースを復元する
7. [Yes] をクリックします。
8. 復元 データベース ボックスは現われ、回復プロセスが進行中であることを示します。図 14 –進行中のデータベース リストア
9. 接続によって失われるボックスは回復プロセスが完了すると現われます。図 15 –完了するデータベースの復元
10. [OK] をクリックします。
11. ノード 2、3 および 4. のためのステップ 1 ~ 10 を繰り返して下さい。

[関連情報](#)

- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)